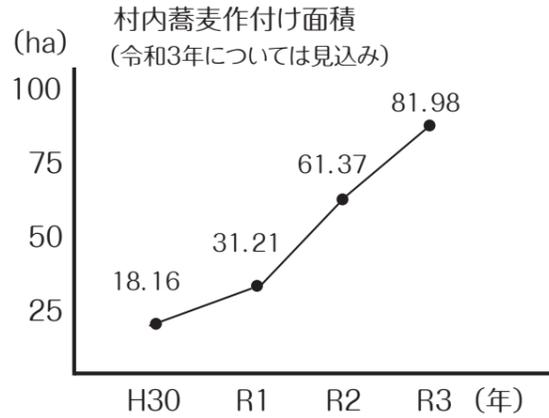


## 広がりを見せる蕎麦栽培

蕎麦の作付け面積は、年々拡大傾向にあります。昨年までは、前田地区、大久保・外内地区、前田・八和木地区、上飯樋地区が中心に。今年はさらに、深谷地区でも、本格的に蕎麦の栽培が始まる予定です。平成30年の村内の蕎麦の作付け面積が約18haだったのに対し、4年目となる今年は約80haにまで広がる見込みです。(作付けする方は村に届け出をお願いします)

**問** 産業振興課農政第二係 ☎0244-42-1625



● 震災後の蕎麦作付け状況の推移 (令和3年については見込み)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
件数	3	4	7	10
(内訳)	個人2・組織1	個人2・組織2	個人3・組織4	個人4・組織6
作付面積	18.16ha	31.21ha	61.37ha	81.98ha

### 「前田明神そば生産組合」としての挑戦 喜んでもらえる蕎麦をつくりたい



前田明神そば生産組合  
組合長 長谷川健一さん  
(前田)

「前田明神そば生産組合」を立ち上げ、「会津のかおり」「信州大そば」を栽培。昨年から秋田県で開発された「にじゆたか」という蕎麦の種取りもしています。現在は、佐藤忠義さん(前田)、高倉辰彦さん(前田)、佐藤公一さん(佐須)と共に、この事業に取り組んでいます。昨年は約42鈴、今年は約45鈴に作付け。蕎麦屋さんや消費者に喜んでもらえる蕎麦をつくらうと励んでいます。蕎麦の実が熟する時期の寒暖差が食味に影響するので、村の気候が生かせる栽培も心掛けています。

また、収穫した蕎麦の商品化や販路開拓にも取り組んでいます。その二環で「信州大そば」は、ありがたいことに、二本松市の製粉会社「木羽屋製粉」と播種前契約を結んで栽培できるようになりました。この蕎麦は粒が特大。殻も大きく歩留まり(玄そばから挽けるそば粉の割合)は少ないのですが、とにかく食味がいい。震災後、刈り取りを手伝っていた福島市の友人から譲り受けた2抱えの種を増やしました。霜に2、3度あてた方がよいと言われるほど晩生の品種で、安定的に穫れるよう研究を続けています。

上飯樋地区の蕎麦畑(令和2年撮影)

いいたての

蕎麦

平成29年の一部を除く避難指示解除以降、蕎麦の作付けも徐々に再開され、その作付面積が年々拡大しています。おいしい蕎麦をつくり、それをどういかしていくか、生産者による試みも始まっています。そして、その前向きな取り組みを起点にして、村内外でさまざまなつながりが生まれています。飯館村の蕎麦をめぐる新しい動きをお伝えします。

特集